

環境経営レポート2024

（ 2023年10月～2024年9月
2025年1月31日 発行 ）



大京天神博多ホテル 新築緑化工事

1. ご挨拶	1
2. 経営理念と環境経営方針	2
3. 会社概要	3
4. 環境活動推進体制	5
5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画	6
(本社／田主丸)	7
(緑のリサイクルセンター)	11
6. 次年度の環境経営目標・計画	14
7. リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生	16
8. 環境関連法規の遵守	18
9. 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	19



1. ご挨拶

木下緑化建設(株)は、創業以来造園業を営み今年で60年近くになります。この間業績を着実に伸ばしており、これもひとえに弊社の企業理念である「環境経営」がお客様からご支持いただいたお陰であると感謝しております。

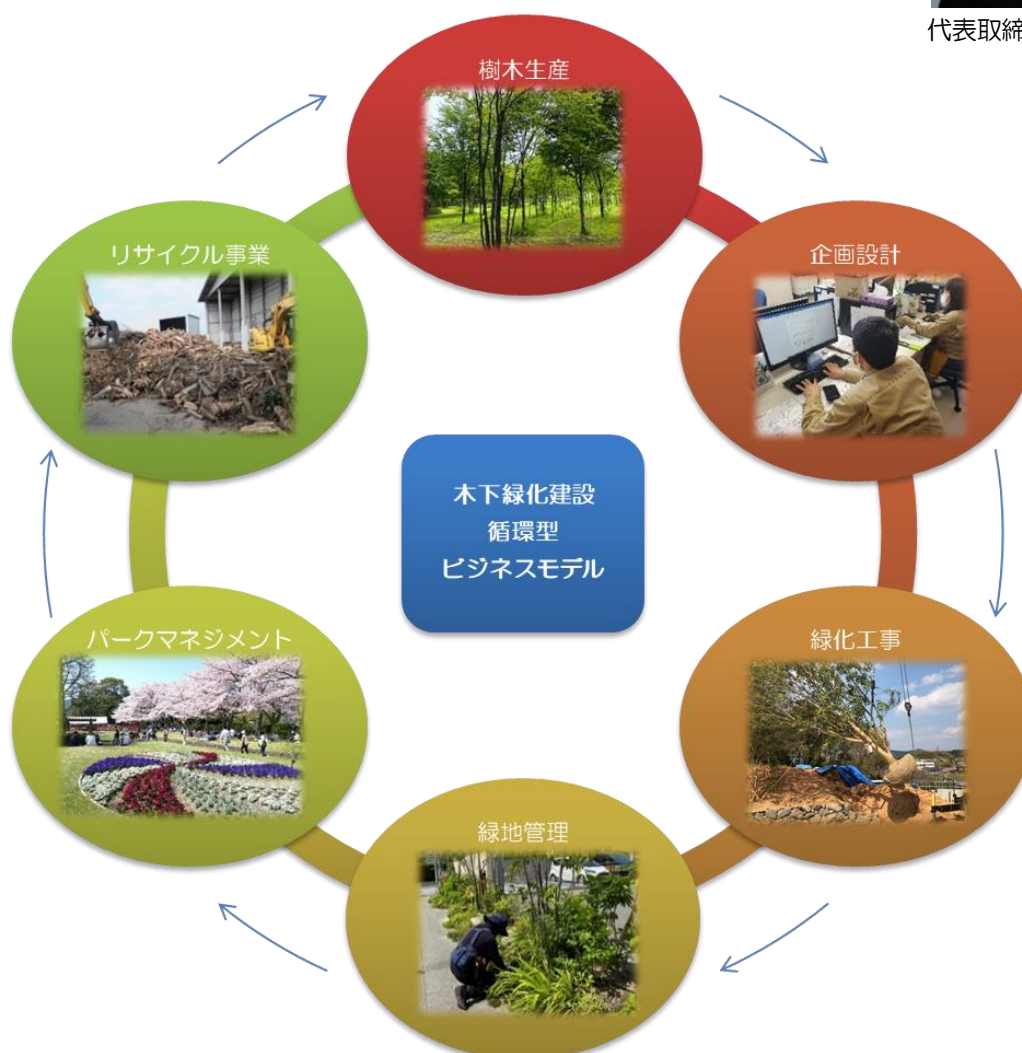
弊社は、高度成長期・バブル経済・デフレ不況・コロナ禍と大きな時代を乗り越えてきました。この間、公共事業中心の経営から民間工事へシフト、そして緑のリサイクル事業への参入、さらには官から民への時代の流れの中で、指定管理者として公園の管理運営に積極的に取り組むなど業態を変えてきました。

また最近では、民間活力により公園整備を推進するPark-PFI事業など、官民連携事業に積極的に取り組んでいます。

今後とも、エコアクション21の活動とSDGs（持続的な開発目標）との整合を図りつつ、弊社が携わる樹木生産 → 緑化工事 → 植栽管理 → リサイクル事業の資源循環型経営を通して、生物多様性保全や地球温暖化防止を視野に入れた企業活動を行なうことにより、地域の発展に貢献してまいりたいと考えております。



代表取締役社長 木下浩市



環境経営方針

【 経営理念 】

- 環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する。
- 品質確保と信頼に勤め顧客満足を向上する。
- 常に会社の繁栄と社員の生活向上に努める。

【 環境方針 】

木下緑化建設株式会社は、緑の住環境づくりを通じて「快適な暮らしと緑」「自然との共生」を掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で、地球環境に密接に関わっていることを認識して行動し環境経営の継続的改善に努めます。

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。

- (1) CO₂排出量の削減
- (2) 廃棄物の削減
- (3) 排水量（水使用量）の削減
- (4) リサイクルの促進
- (5) 社会貢献に努める
- (6) 計画的な環境教育・訓練の実施
- (7) 化学物質の適正管理

2. 地球温暖化の緩和や生物多様性保全に取り組み、快適な環境づくりに貢献します。

- (1) 公園、集合住宅緑化、工場緑化、外構造園の緑化事業はもとより、屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化等の環境緑化事業を推進します。
- (2) 開発やメンテナンスにより発生する根株や剪定枝、草をチップ化しこれを材料に堆肥製造し、植生基盤材として新しい緑地へ還元します。

3. 関係する環境関連法規を順守します。



エコアクション21

認証・登録番号 0006924

制定：2010 年 10月 1日

改訂：2023 年 10月 1日

木下緑化建設株式会社

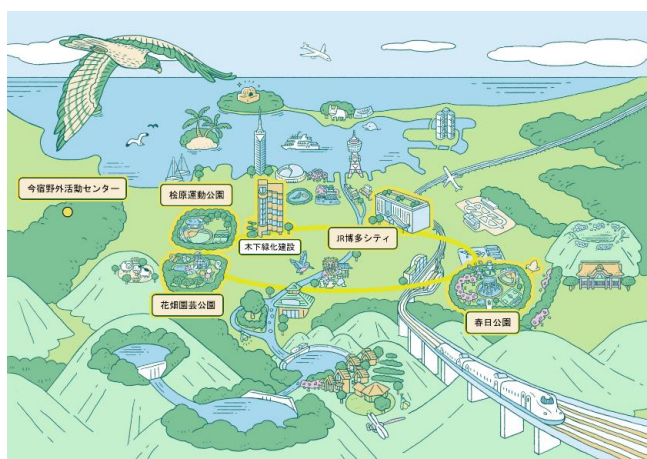
代表取締役社長 木下 浩市

3. 会社概要

- 会社名 木下緑化建設株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 木下 浩市
- 所在地 本社 : 福岡市南区長丘3丁目13番27号
田主丸事業所 : 福岡県久留米市田主丸町志塚島219番地1
緑のリサイクルセンター : 福岡県久留米市田主丸町志塚島1番地3
- 環境管理責任者 山口 琢也
- 連絡先 TEL 092-551-0877 FAX 092-552-7041
E-mail : kanri@kinoshitaryokuka.com HP : <http://kinoshitaryokuka.co.jp>
- 営業種目 (事業活動) 植木、苗木の販売/各種公園設計施工/土木工事一式/産業廃棄物の収集、運搬、処理業/一般廃棄物の収集、運搬、処理業/公園・スポーツ施設等、施設緑地の運営、管理、および運営受託に関する業務/農産物の生産・加工・販売、農園・農産物直売店・農産物加工所の経営、および運営受託に関する業務/キャンプ場、バーベキュー場および研修教育施設の運営並びに運営受託に関する業務/公園、施設緑地等における教育・文化事業の企画および興業/地方自治法に基づく指定管理者制度による公共施設の運営受託に関する業務/産業廃棄物再資源化(木くず)業務/不動産の賃貸借による収益業務 等
- 設 立 1967年 2月 9日
- 資本金 4,500万円
- 売上高 2024年度 1,157百万円
- 従業員数 96名
- 床面積 本社 612.15㎡ 田主丸事業所 52㎡ 緑のリサイクルセンター 3,888㎡
- 許可番号 造園工事業 福岡県知事(特一)第112739号
土木工事業 とび・土工工事業 福岡県知事(般一)第112739号



↑↑HP QRコード



3. 会社概要

【産業廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第11220080473号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず 中間処理（発酵）：木くず	2021年11月29日 2026年11月28日

【一般廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第3014号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず、草 中間処理（発酵）：木くず、草	2024年4月1日 2026年3月31日

【産業廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
福岡県知事	第4000080473号	木くず	2021年10月20日 2026年10月19日	無

【一般廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
久留米市長	第1014号	木くず、草 （事業系一般廃棄物に限る）	2024年4月1日 2026年3月31日	無

【特殊肥料生産販売】

福岡県 第2201号	リサイクルウッド堆肥 福岡県第4895号（チップ）
	ゴールデンアース 福岡県第5204号（放線菌）
	ゴールデンアース2 福岡県第5249号（キンド・尿素等）

●資格者数

資格名	人数	資格名	人数
1級造園施工管理技士	24名	建築緑化コーディネーター	4名
2級造園施工管理技士	6名	樹木医	1名
1級土木施工管理技士	9名	植栽基盤診断士	10名
2級土木施工管理技士	7名	1級ビオトープ管理士	1名
1級建築施工管理技士	1名	自然再生士	7名
1級造園技能士	4名	公園管理運営士	7名
職長・安全衛生責任者	26名	破碎・リサイクル施設技術管理士	3名

（延べ110名／従業員96名）

●収集運搬

運搬車両の種類と台数

キャブオーバー	2.00t	2台	コンテナ専用車	3.80 t	1台
キャブオーバー	2.85 t	1台	ダンプ	3.00 t	1台
コンテナ専用車	3.85 t	1台			

●処理施設

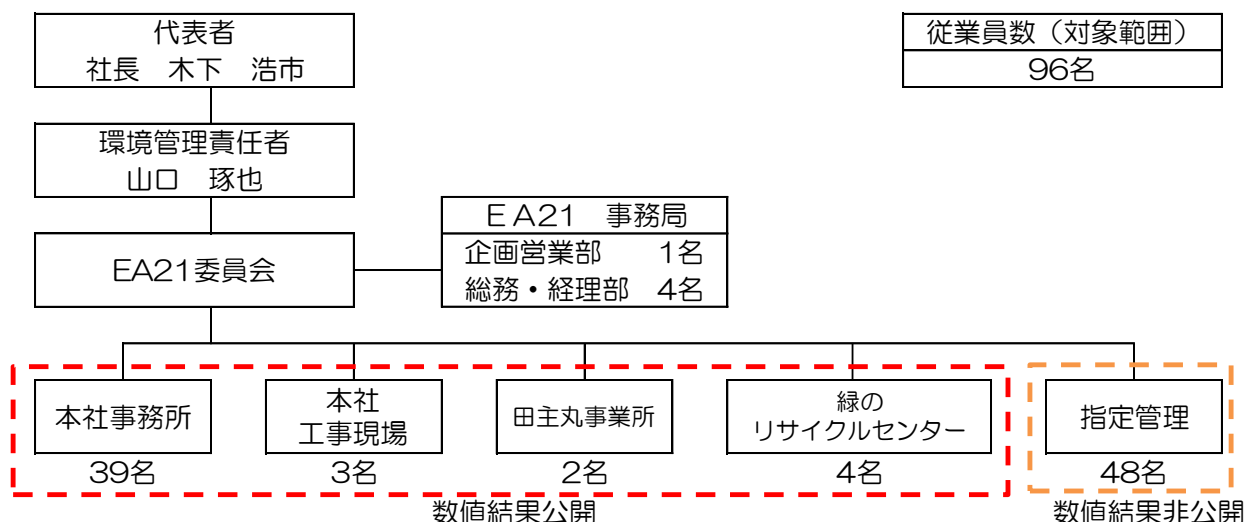
施設の種類	移動式破碎施設（株小松製作所 BR200T-3）
処分能力（規模）	200 t/日（8 h） 一般廃棄物処分業
施設の種類	移動式破碎施設（株諸岡 MC-2000型）
処分能力（規模）	25.9 t/日（8 h）

●対象範囲

対象組織	： 本社、田主丸事業所、緑のリサイクルセンター
対象活動	： 造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業、 産業廃棄物処分業（中間処理）、一般廃棄物処分業（中間処理） 指定管理施設の管理

4. 環境活動推進体制

E A 2 1 実施体制



・役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表者（社長）	- 代表として環境経営全般について責任と権限を持つ。 - 環境方針の作成・見直し・従業員への周知を行う。 - 環境管理責任者、E A 2 1事務局員を任命する。 - E A 2 1全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する。 - E A 2 1を運用し維持するための経営資源を用意する
環境管理責任者	- E A 2 1ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる。 - 環境方針、環境目標、環境活動計画の達成と実績の結果を 合同会議で報告する。 - 発生した問題点を経営会議で報告し、是正処置、予防処置を合同会議にて全従業員へ周知徹底する。
EA21事務局	- 環境管理責任者を補佐し、E A 2 1文書及び記録類の作成・維持・管理を行う。 - 社外からの環境情報の収集と伝達を行う。
EA21委員会（経営会議）	- 環境方針、環境目標の達成状況及び環境計画の実行状況を審議する。 - 関連する法規制等を各課員へ周知徹底し順守する。 - 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する。 - 緊急事態への準備及び対応の訓練をK Y活動で実施する。 - E A 2 1方針を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 - 決められたことを守り、自主性・積極性に環境活動へ参加する。

※環境記録の保存期間は5年とする。

5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画

■本社/田主丸

2024年度 完成工事高 ¥1,097(百万円)

環境経営方針		活 動 計 画	活動評価	目標数値項目	目標	実績	実績評価
1	CO2排出量の削減	・合同会議（月1回）の議題項目に“E A21 報告”を設ける。	○	二酸化炭素排出量			
		・電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。	○	CO2 単位：t- CO_2 /売上高（百万円）	0.11以下	0.11	○
		・LED電球への切り替え	△	電力 単位：MWh/売上高（百万円）	43以下	46	×
		・使用していない機器類・照明の電源を切る。	○	ガソリン 単位：ℓ/売上高（百万円）	37以下	34	○
		・クールビズ、ウォームビズの徹底	○	軽油 単位：ℓ/売上高（百万円）	7以下	6	○
		・時間外労働を減らす。（iPhone等の有効活用で社内外連絡の効率化等）	○				
		・iPhoneを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす	○				
		・車両の切り替えをする。（幹部車両は原則ハイブリッドカーとする。）	○				
		・アイドリングストップとエコドライブを徹底する。	△				
2	廃棄物の削減	・発生原因の重大要素をつかみ、改善策を設定する。	△	廃棄物 単位：t/売上高（百万円）	0.067以下	0.072	×
		・紙媒体以外のPRを強化する。	○				
		・裏紙使用を徹底する。	○				
3	排水量（水使用量）の削減	・水資源の無駄が無いように実績管理をする。	△	水使用量 単位：m3/売上高（百万円）	0.17以下	0.16	○
		・田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮を図り灌水を削減する。	○				
4	リサイクルの促進	・産業廃棄物の分別	○	コピー機使用 単位：枚/売上高（百万円）	158以下	190	×
		・現場からの持ち帰り残材料の保管管理徹底	△				
5	生物多様性保全への取り組み	・自然教育を実施する	○				
		・生物多様性の重要性啓発を進める。	○				
6	社会貢献に努める	・環境活動や子供たちの育成に協力、地域イベントに参加に努めます	○				
7	計画的な環境教育・訓練の実施	・造園CPD年間50単位の推奨	×				
8	化学物質使用量の適正管理	・使用量の把握	△	化学物質使用量 単位：kg/売上高（百万円）	—	0.22	—
		・SDSの入手及び管理	△				

■緑のリサイクルセンター

2024年度 リサイクルセンター売上高 ¥60(百万円)

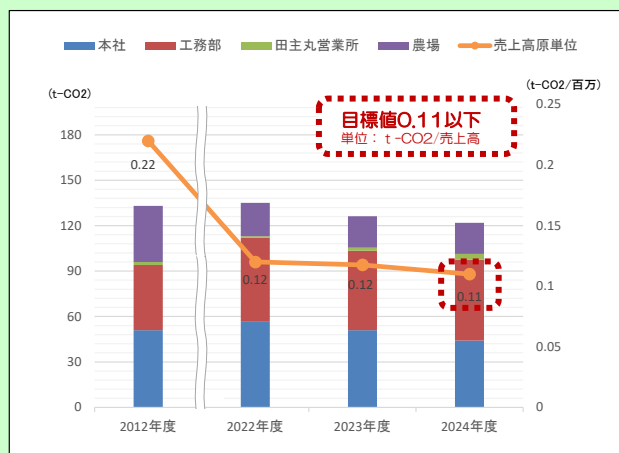
環境経営方針	活動計画	活動評価	目標数値項目	目標	実績	実績評価
1 CO2排出量の削減	・電気使用量の削減、燃料(軽油)の削減を周知徹底する。	○	二酸化炭素排出量			
	・LED電球への切り替え	×	CO2 単位: t- CO_2 /売上高(百万円)	3.42以下	3.66	×
	・使用していない機器類・照明の電源を切る。	○	電力 単位: MWh/売上高(百万円)	200以下	164	○
	・クールビズ、ウォームビズの徹底	○	軽油 単位: l/売上高(百万円)	1,300以下	1,398	×
	・定期的な破砕機の点検整備	○				
	・作業時以外は機械(破砕機)のエンジンを切る	○				
2 廃棄物の削減	・緑のリサイクルセンターで混入した木くず以外の廃棄物データを取得する。	○	廃棄物 単位: t/売上高(百万円)	0.15以下	0.14	○
3 排水量(水使用量)の削減	・水資源の無駄が無いように実績管理をする。	△	水使用量 単位: m ³ /売上高(百万円)	0.75以下	0.82	×
4 リサイクルの促進	・産廃受託をふやす	△	リサイクル事業 受託金額 単位: 売上高(百万円)	67以上	60	×
	・リサイクル製品の活用PR	○				

※電力の排出係数は2018年度九州電力の調整後の排出係数0.347kg-CO₂/kWh

5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（本社／田主丸）

■二酸化炭素排出量

目標達成
達成率100%



取組結果

今年度も二酸化炭素の総排出量は減少、売上高原単位で比較した場合でも一昨年度、昨年度に比べ、微減の状態となりました。

昨年度に続き、鹿児島や熊本での大型工事等、遠方への営業活動、工事の実施がありましたが、中継点としての宮崎営業所の開設により、長距離移動を減らしながら売上高を維持できた結果と考えています。

また、オンライン会議については、完全に定着し、不要な移動が減ったことも削減の要因といえます。



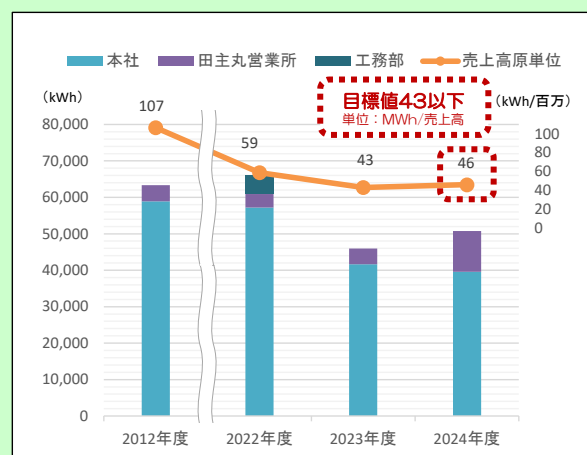
次年度の取組

工事受注に向け、単純な価格競争から提案型の営業活動が増えてきたことに伴い、紙の消費量が増えてきました。書類のデジタル化を推進し、社内打合せ段階では紙資料の作成を減らすほか、印刷物のリサイクル徹底にも取組みます。

また、オンライン会議やテレビ会議の活用等、準備は整いましたが、昨今の業務環境では、リモートワークやオンラインでの営業活動は衰退していると言わざるを得ません。相手方の理解等が必要になりますが、今後においてもできる限り継続し、従業員の通勤や営業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減を目指します。

■電力消費量

目標未達成
達成率93%



取組結果

今年度は、新規事業として田主丸事業所において、茶葉の自社生産を始めました。茶葉の製造過程において、乾燥機を使用する必要があり、電力消費量の大幅な増加の要因となりました。

また、今年度も長期の現場事務所を設ける必要のある工事がなく、工務部としての電力消費がなかったことも、電力消費量の削減に寄与しています。



次年度の取組

新規事業の茶葉の生産については、循環型の経営を目指す取組みの一つとして、当社で生産されるリサイクル堆肥を使用しています。電力消費に対する製品の売上高、リサイクル堆肥の消費量等をチェックし、環境経営に寄与できているか、否か、効果等の測定を続けていきます。

本社内においても、引き続き使用頻度が高い部屋や設備の利用時間を見直し、必要最小限の時間だけ電力を使用するように、スケジュールを調整する等の運用面での取組みを強化していきます。

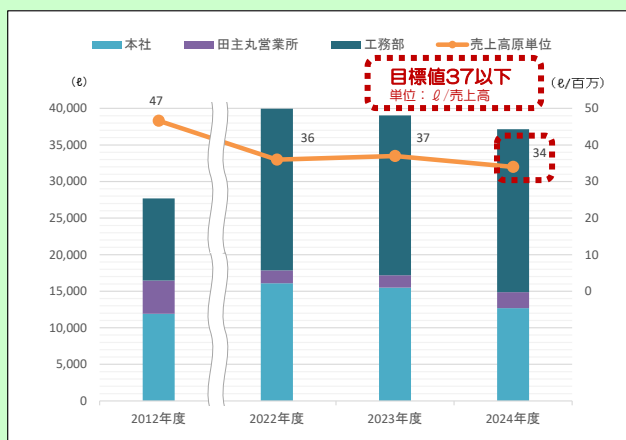
5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（本社／田主丸）

■ガソリン消費量

目標達成
達成率109%



取組結果



今年度のガソリン使用量が減量となった要因に、宮崎営業所の開設が挙げられます。

鹿児島等、遠方の営業活動が多くなる中、以前は福岡-鹿児島間の移動を行っていましたが、中継点である宮崎営業所からの移動が増え、長距離運転を減らすことができたことが減量に寄与したと考えています。

また、ハイブリッド車の導入も進み、効率的な移動ができたことも使用量減少に寄与しました。

オンライン会議については、しっかりと定着しており、不要な帰社をせずに済むようになりました。



次年度の取組

オンライン会議は定着しつつある一方、リモートワークについては推進、推奨されている状況とは言い難くなってきています。業務の内容を整理し、リモートワークを継続できるものに関しては、再度取組みを推奨していきます。

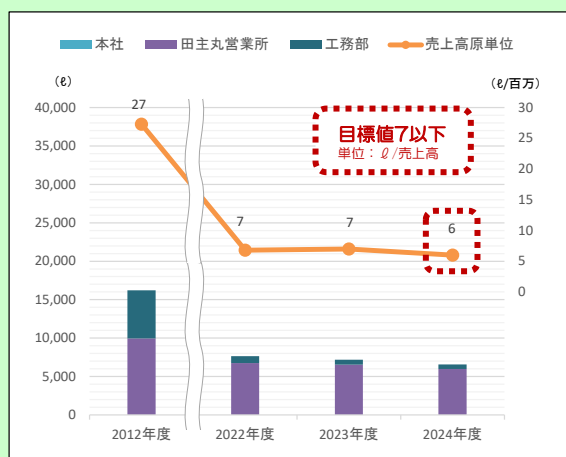
また、宮崎営業所の機能、活動を強化すると共に、引き続きエコカーへの買い替えも順次進めていき、遠方営業に対して強みをもてるようにしていきます。

■軽油消費量

目標達成
達成率117%



取組結果



今年度も鹿児島での大型工事等、長距離移動が多い年でありました。

その中でも社外の運送業者を使った配送も継続して実施してきた結果、若干ながらも軽油の使用量については減らすことができました。

ただし、昨今の人件費、燃料費の高騰は著しいものがあり、大幅なコストアップが避けられません。



次年度の取組

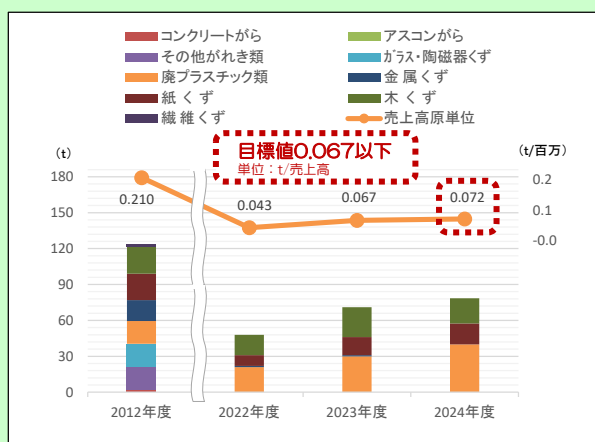
運送業者のコスト上昇は避けられない中、当社としての軽油の使用量や長時間労働の軽減ということだけを考えた場合、運送業者委託は非常に有効ですが、委託比率等の検討が特に重要になると考えています。

できる対策として、次年度も引き続き長時間のアイドリングを避け、長時間停車する場合はエンジンを停止する等のエコドライブ講習の実施、並びに定期的な点検と整備によるメンテナンスを行い、フィルターの目詰まりやエンジンの劣化を起こさないよう注意し、燃費の悪化を防ぎます。

5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（本社／田主丸）

■産廃ボックスの廃棄物排出量

目標未達成
達成率93%



取組結果

今年度も木くずについては、分別の上、自社のリサイクルセンターにて処分の流れが定着し、社外への排出については、ほぼゼロに抑えられました。

一方、紙くずについては、コピー機の使用量増加に伴い排出は増加となりました。

また、長年の課題となっている請負工事として現場で処分頂くものと、元請工事として当社に持ち帰らなければいけないものの分別、減量ですが、廃プラスチック類については連続の増加となりました。



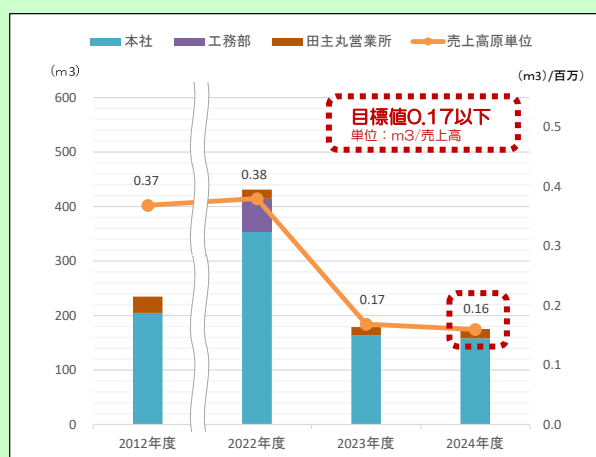
次年度の取組

引き続き、工事現場にて廃棄物処分の責任区分の明確化と協議を進め、元請け側で廃棄・リサイクルする必要があるものに関しては、適正な処置を行って頂くよう、現場担当者から進言・協議を行うよう指導します。

また、紙くずの増加に対しては、適切に分別されず産廃ボックスに入っている可能性を考慮し、社員に対して紙、プラスチック、金属等の適切な分別方法を再確認するための教育を実施します。特に、紙類をリサイクルボックスに入れるよう啓発していきます。

■水使用量

目標達成
達成率106%



取組結果

水の使用においては、継続して利用頻度の低い部屋や設備を利用しないようにすることで、無駄な水の消費を減らすことができました。

また、長期の現場事務所を設ける必要のある工事がなかったため、工務部の現場事務所としての水使用がほとんどなかったことも、消費量の削減に寄与しています。



次年度の取組

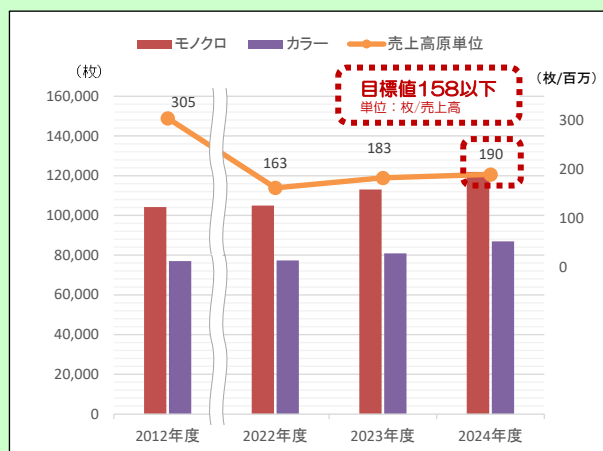
節水型のトイレや洗面所の設置、節水型の蛇口の取り付け等、節水設備の導入を検討しましたが、実施には至らなかったため、引き続き導入の検討を行います。

また、雨水活用についても本社では実施に至らなかったため、雨水を集めるための施設の設置を推進し、植物の水やりに使用する等、再利用水の活用を検討します。

5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（本社／田主丸）

■コピー機使用量

目標未達成
達成率83%

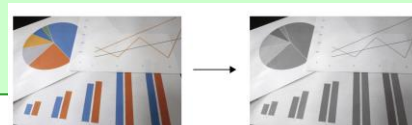


取組結果

昨年に続き今年度も、モノクロコピー、カラーコピー共に増加し、さらに売上高原単位での数値においても増加の結果となりました。

これは、今年度も提案型のプレゼン営業が続き、資料の作成段階において、紙での原稿打合せが多くあったことが原因と考えています。

また、工事現場でもリモートでの打合せは、ほぼ無くなり、対面での活動が増えたため、紙での資料作成が増えました。



次年度の取組

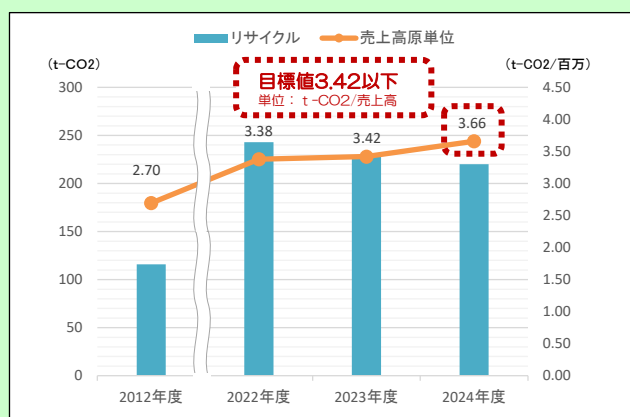
昨年度から引き続き、対外的なプレゼン資料、提出資料のペーパーレス化について、提案していきます。
また、会議室内に導入された大型ディスプレイは、資料印刷の削減に繋がりましたので、こちらも引き続き活用していきます。

さらに、報告書等は紙ではなく電子ファイルとして提出するようにルールの変更を検討します。特に頻繁に使用する書類やフォーマットは、完全なデジタル化を目指します。

5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（緑のリサイクルセンター）

■二酸化炭素排出量

目標未達成
達成率93%



取組結果

昨年度に続き、二酸化炭素の排出量は減少したものの、売上高原単位としては、増加の結果となりました。

昨年度オープンした近隣のリサイクルセンターの影響は大きく、産業廃棄物（木くず）の受入量の減少に伴い、売上高の減少傾向は続きました。

その中でも売上高の減少に伴い、センター内の作業内容を見直すことで電力については減少となる等、一部で見直し効果は出ている結果となりました。

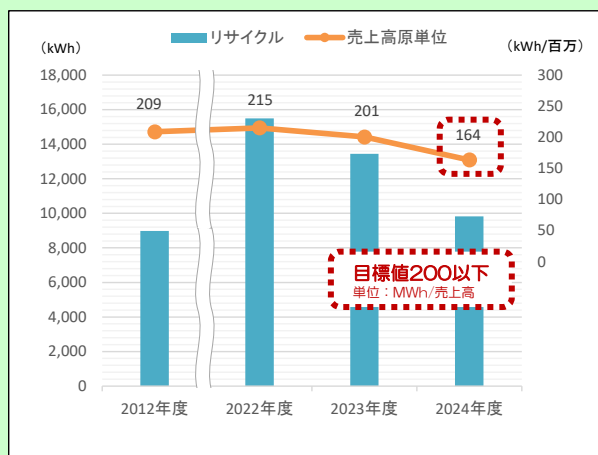


次年度の取組

廃棄物の搬入量、および搬入物の構成については、現状をしっかりと受け止め、その量に見合った運営をすることが肝心だと考えています。受け入れ時に即応するため常にベルトコンベアや重機をスタンバイさせておくのではなく、現在の受け入れ量に応じた稼働と停止のスケジュールをしっかりと立て、計画的な運営を行うことで、日平均の排出量を減少させていきます。

■電力消費量

目標達成
達成率122%



取組結果

昨年度に続き、木くずの受入れ減少が進んだ結果、電力使用量は大きく削減されました。

木くずに関しては、破砕機によってチップ化されたのち、ベルトコンベアを使用して、集積場で運ばれますが、木くず受入量の減少により、ベルトコンベアを止めておく時間ができたため、電力使用量を抑えることができました。



次年度の取組

産業廃棄物の受け入れ量が減少するということは、再利用やリサイクルの機会が失われることに繋がり、エコアクションの観点からはマイナス要因と考えています。

機械の稼働時間を短くし電力消費を抑えることは、利益確保の観点からはプラスとなりますので、受入量がコントロールしやすくなった現状に合わせた、効率的な運営を行っていきます。

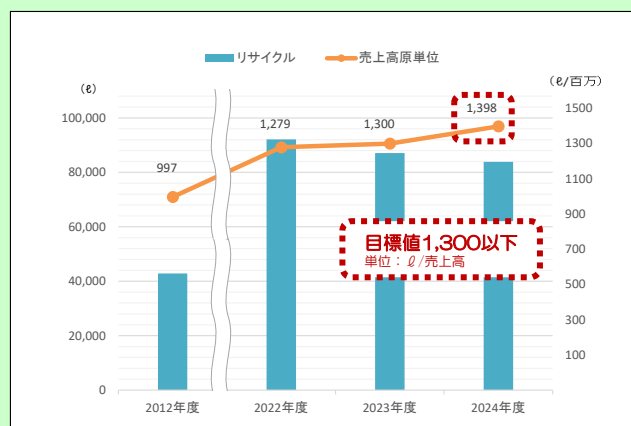
5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（緑のリサイクルセンター）

■軽油消費量

目標未達成
達成率93%



取組結果



昨年度に続き、木くず受入量の減少を受け、軽油に関しても使用量が減っています。

現在の受け入れ量に応じた、重機稼働と停止のスケジュールを立てたことが、無用な待機状態による軽油使用を抑えることができた結果と考えています。



次年度の取組

木くずの搬入量が多かった頃は、センターの広さに限りがあるため搬入車両がセンターに来るたびに一次破碎を行う必要があり、即応のため、常に重機をスタンバイさせていた状況であり、アイドリングストップも十分ではありませんでした。

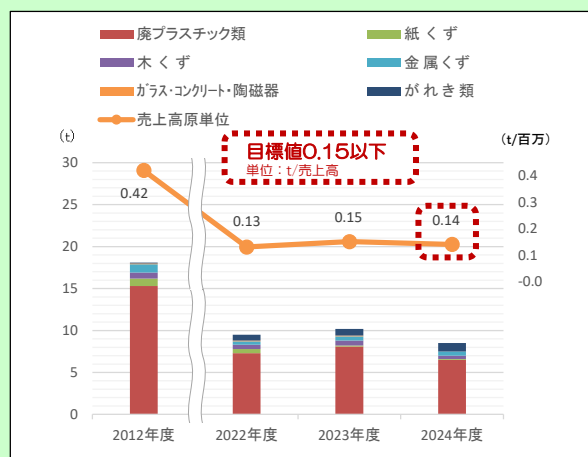
軽油に関しても、機械の稼働時間を短くし軽油消費を抑えることは、利益確保の観点からプラスとなりますので、受入量がコントロールしやすくなった現状に合わせた、効率的な運営を行っていきます。

■産廃ボックスの廃棄物排出量

目標達成
達成率107%



取組結果



木くずの受入れ減少に反し、一般廃棄物である刈草の受入れ量は増加に転じました。刈草と共に持ち込まれる不法投棄されたペットボトル等のゴミの混入については、昨年からの掲示や呼びかけにより、今年度は減少に転じました。

また、センター内の整理、清掃を行い不要物を廃棄したことにより、がれき類に関しては一時的な廃棄物の増加に繋がりました。



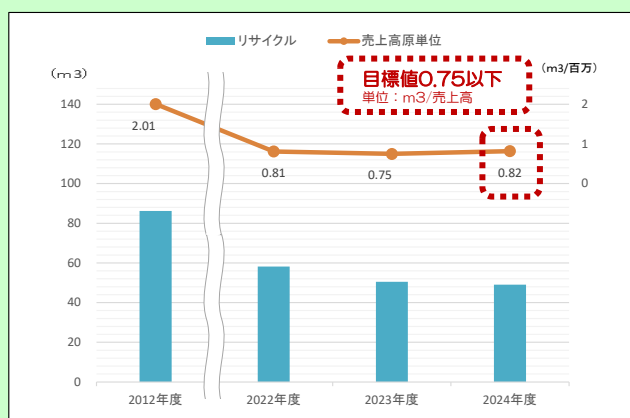
次年度の取組

河川から排出される刈草は、例年、酪農向け牧草が優先され、そこで受入れできなかった余剰がリサイクルセンターへ持ち込まれています。牧草となる分に関しては、異物混入には厳しく、しっかりと分別されるようですが、昨年度は牧草の受入れが少なかったようです。当リサイクルセンターとしても、掲示や呼びかけにより、分別のお願いを継続したところ、廃プラ、紙くず等において減少に転じる事が出来ました。引き続き、堆積前、集草時の分別作業実施のお願いとともに、不法投棄の問題とその影響について、地域住民、事業者、地方自治体、国土交通省等に報告し、不法投棄を防止するための取組み促進をお願いしていきます。

5. 環境経営目標・実績・評価・次年度の取組計画（緑のリサイクルセンター）

■水使用量

目標未達成
達成率91%



取組結果

水の使用量についても、木くずの受け入れ減少が影響し、減量となりました。

木くずに関しては、破砕機によってチップ化されたのち、一部は発酵させ堆肥として製品化を行っておりますが、この発酵促進のための散水量が減少したことも影響し、水使用量を抑える結果となりました。



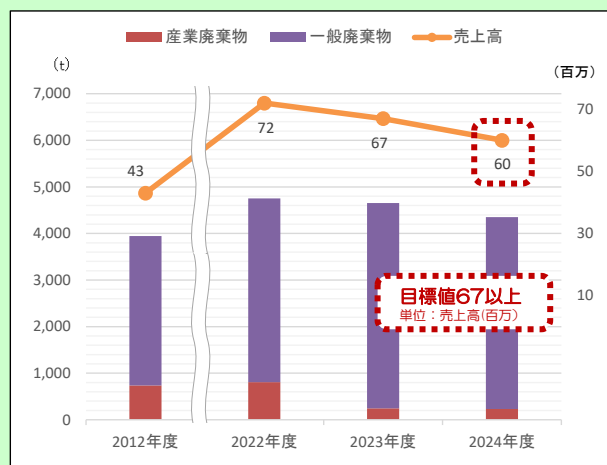
次年度の取組

こちらも電力、軽油と同様の測定・評価結果となりますが、産業廃棄物の受け入れ量が減少するということは、再利用やリサイクルの機会が失われることに繋がり、エコアクションの観点からはマイナス要因と考えています。

また、草を原料とした堆肥は、能力、価値としては木くずには劣る部分もありますが、新規事業としての薬草茶の製造に伴い、肥料の自社消費を促進し、循環経営を目指します。

■リサイクル事業 受託量

目標未達成
達成率90%



取組結果

昨年度に続き、近隣にできた他社のリサイクルセンター営業による影響により、産業廃棄物の搬入量は減少したままでした。

搬入量の減少に伴い、電気、水道、軽油等の使用量は減少したものの、リサイクル活動自体も低調となり、売上高にも影響する結果となっています。



次年度の取組

売上高の減少は、適正なバランスでセンターを運営する好機であることは認めつつ、それでも受け入れ量の増加自体がエコアクションであることも鑑みて、産業廃棄物の受入においては、施設の安全性や環境への配慮等を強調し、広範囲にアピールすることで、受入量の増加を目指します。

同時に、場内整理・受入態勢の強化を行い、無理・無駄な機械運転を減らすことで燃料消費を抑えると共に、少しでも多くの一般廃棄物を処理していくことで、地域の環境、衛生に貢献していきます。

6. 次年度の環境経営目標・計画（本社／田主丸）

本社／田主丸	平成24年度						
	2012年度 (基準年)	2024年度 目標	2024年度 実績	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標	単位
二酸化炭素排出量	0.22	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	t-CO2/売上高(百万)
電気使用量	107	43	46	43	43	43	MWh/売上高(百万)
燃料使用量(ガソリン)	47	37	34	34	34	34	ℓ/売上高(百万)
燃料使用量(軽油)	27	7	6	6	6	6	ℓ/売上高(百万)
廃棄物排出量	0.210	0.067	0.072	0.067	0.067	0.067	t/売上高(百万)
水使用量	0.37	0.17	0.16	0.16	0.16	0.16	m3/売上高(百万)
コピー機使用	305	158	190	158	158	158	枚/売上高(百万)
化学物質使用量の適正管理	-	-	0.220	-	-	-	kg/売上高(百万)

※電力の排出係数は2018年度九州電力の調整後の排出係数0.347kg-CO2/kWh

■本社／田主丸

環境経営方針		活 動 計 画
1	CO2排出量の削減	・ 合同会議（月1回）の議題項目に“E A21報告”を設ける。 ・ 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。 ・ LED電球への切り替え ・ 使用していない機器類・照明の電源を切る。 ・ クールビズ、ウォームビズの徹底 ・ 時間外労働を減らす。（iPhone等の有効活用で社内外連絡の効率化等） ・ iPhoneを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす ・ 車両の切り替えをする。（幹部車両は原則ハイブリッドカーとする。） ・ アイドリングストップとエコドライブを徹底する。
2	廃棄物の削減	・ 発生原因の重大要素をつかみ、改善策を設定する。 ・ 紙媒体以外のPRを強化する。 ・ 裏紙使用を徹底する。
3	排水量（水使用量）の削減	・ 水資源の無駄が無いように実績管理をする。 ・ 田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮を図り灌水を削減する。
4	リサイクルの促進	・ 産業廃棄物の分別 ・ 現場からの持ち帰り残材料の保管管理徹底
5	生物多様性保全への取り組み	・ 自然教育を実施する ・ 生物多様性の重要性啓発を進める。
6	社会貢献に努める	・ 環境活動や子供たちの育成に協力、地域イベントに参加に努めます
7	計画的な環境教育・訓練の実施	・ 造園CPD年間50単位の推奨
8	化学物質の適正管理	・ 使用量の把握 ・ SDSの入手及び管理

6. 次年度の環境経営目標・計画（緑のリサイクルセンター）

緑のリサイクルセンター 平成24年度

	2012年度 (基準年)	2024年度 目標	2024年度 実績	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標	単位
二酸化炭素排出量	2.70	3.42	3.66	3.42	3.42	3.42	t-CO2/売上高(百万)
電気使用量	209	200	164	164	164	164	MWh/売上高(百万)
燃料使用量(軽油)	997	1,300	1,398	1,300	1,300	1,300	ℓ/売上高(百万)
廃棄物排出量	0.42	0.15	0.14	0.14	0.14	0.14	t/売上高(百万)
水使用量	2.01	0.75	0.82	0.75	0.75	0.75	m3/売上高(百万)
リサイクル事業の促進	-	67	60	67	67	67	売上高(百万)

※電力の排出係数は2018年度九州電力の調整後の排出係数0.347kg-CO2/kWh

■緑のリサイクルセンター

環境経営方針		活 動 計 画
1	CO2排出量の削減	・電気使用量の削減、燃料（軽油）の削減を周知徹底する。
		・LED電球への切り替え
		・使用していない機器類・照明の電源を切る。
		・クールビズ、ウォームビズの徹底
		・定期的な破砕機の点検整備
		・作業時以外は機械(破砕機)のエンジンを切る
2	廃棄物の削減	・緑のリサイクルセンターで混入した木くず以外の廃棄物データを取得する。
3	排水量（水使用量）の削減	・水資源の無駄が無いように実績管理をする。
4	リサイクルの促進	・産廃受託をふやす
		・リサイクル製品の活用PR

7. リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生

■マテリアルバランス

下表は2024年度の資源や資材の投入(インプット)から環境負荷量(アウトプット)までを示したものです。

資源投入量(インプット)						
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
本社 田主丸(事)	電力量	45,978kWh	50,773kWh	圃場樹木(9月30日現在)	6,384本	7,367本
	上水	164m ³	158m ³	循環資源使用量(木くず)	102t	105t
	地下水	15m ³	17m ³	コピーカウンター	モノクロ	113,084枚
	燃料	ガソリン	39,035ℓ		カラー	80,858枚
		軽油	7,181ℓ			121,883枚
緑の リサイクルセンター			6,573ℓ			86,942枚
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
	電力量	13,445kWh	9,822kWh	コピーカウンター	モノクロ	5,276枚
	上水	0m ³	0m ³		カラー	694枚
	地下水	51m ³	49m ³			997枚
	燃料	ガソリン	0ℓ			
		軽油	87,084ℓ			83,859ℓ



事業活動		
		
企画設計	緑化工事	緑地管理
		
パークマネジメント	リサイクル事業	樹木生産

樹木供給量（植栽樹木移植本数）		2023年度	60,219 本			
		2024年度	47,929 本			
圃場樹木（9月30日現在）		2023年度	570 本			
		2024年度	486 本			
リサイクル事業 （中間処理）	①産業廃棄物（受入）	2023年度	248 t	（木くず）		
		2024年度	230 t	（木くず）		
	②一般廃棄物（受入）	2023年度	4,407 t	（木くず・草）		
		2024年度	4,123 t	（木くず・草）		
	③収集運搬	2023年度	0 t			
		2024年度	0 t			
	④再資源化量	2023年度	4,655 t	（木くず）チップ化		2,839 t
				（木くず）チップ、バイオマス燃料		971 t
		2024年度	4,353 t	（木くず・草）発酵、堆肥化		840 t
				（木くず）チップ化		2,723 t
（木くず）チップ、バイオマス燃料				790 t		
（木くず・草）発酵、堆肥化				840 t		



環境負荷量(アウトプット)						
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
本社 田主丸(営)	二酸化炭素排出量	125,823 kg-CO ₂	121,860 kg-CO ₂	チップ	0t	1t
	排水	179 m ³	175 m ³	堆肥	9t	5t
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
緑の リサイクルセンター	二酸化炭素排出量	229,342 kg-CO ₂	219,764 kg-CO ₂	チップ	5,147t	3,507t
	排水	51 m ³	49 m ³	堆肥	840t	840t

7. リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生

■植物性産業廃棄物のリサイクル

樹木の伐採や剪定枝(木本類)または芝草(草本類)は公では焼却処分ができない一般廃棄物です。当社リサイクルセンターでは、有効な資源として受入れ体制を整えていきます。活用方法として「果樹園の敷草」「緑地の堆肥」「農産物の堆肥」「家畜の敷草」等が考えられます。地域への煙害防止やCO₂の削減にも寄与します。

■植物性廃棄物(草本類の堆肥化)



●草本類の搬入と集積
搬入された草本類を集積し、植物から根についている土壌を振るいながら分類し再集積する。



●草破碎
集積した植物をモロオカMC2000により長さ約10cmに破碎する。長さの基準値を定め、農地で栽培する蔬菜や樹木によって出荷時に分類します。



●農地搬入攪拌
破碎した植物性堆肥を圃場へ搬入・敷均し、バックホウで攪拌し堆肥化します。

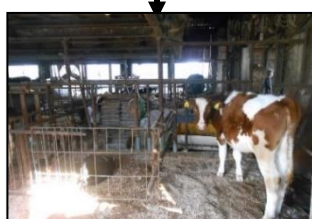


●樹木植栽(圃場)
植栽基盤は、有害物質が混入しない優良な土壌です。物理的な空隙と化学的な保肥力が高く幼木の生産に適しています。

■植物性廃棄物(木本類の堆肥化(牛舎混合型))



●リサイクルセンターに搬入された木材を小割→破碎機でチップ化→蓄積→大小チップに振るい分けを行う。用途別に区分する。



●木チップを敷き藁(牛舎の牛の健康管理と糞尿処理の簡便化)として敷設し、糞尿とチップを混合させることで堆肥化する。(畜産業との協働事業)



●糞尿とチップ材の粒径・品質ごとに分類し、田畑の栽培野菜に合わせて納品・散布する。



●薬草の栽培
木質チップ(小型)は完熟速度が速く、薬草の土壌改良材として再利用しています。モリंगाなどを栽培し健康薬茶に加工しています。

■植物性廃棄物(バイオマスの燃料化)



●チップ・積込み運搬
大チップを50m³車両に積込み作業



●チップ・ストックヤード
荷下ろしを行う。



●バイオマス発電所
燃料(木片チップ材)として発電を行う。

■リサイクル事業でのSDG s 取組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDG s を重ね合わせた活動(主要な活動抜粋)



13. 気候変動に具体的な対策を

何もしなければ産業廃棄物となったり地域によっては焼却され環境汚染となる木本類・草本類を堆肥化し再生利用したり、バイオマス燃料化したりと廃棄物削減(リサイクル)、二酸化炭素の排出削減に寄与している。



8. 環境関連法規の遵守

■主な環境関連法規等遵守状況等の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
グリーン購入法	一般的な義務	適
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理（委託）	適
	一般廃棄物の処理（委託基準）	適
	産業廃棄物の処理（処理義務）	適
	産業廃棄物（処理基準）	適
	産業廃棄物（保管基準）	適
	産業廃棄物（保管の届出）	適
	産業廃棄物（委託）	適
	委託基準	適
	産業廃棄物（排出者責任）	適
	産業廃棄物（多量排出事業者の義務）	適
	産業廃棄物管理票の交付	適
	投棄禁止	適
	焼却禁止	適
	産業廃棄物管理票の写しの保存期間	適
	管理票交付者の報告書	適
	管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適
	管理票交付者が講ずるべき措置	適
建設リサイクル法	建設業等を営む者の責務	適
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	適
	下請負人に対する元請業者の指導	適
オフロード法	事業者及び使用者の責務	適
	使用の制限	適
	雑則	適
	建設業法に規定する建設業を営む者で特定特殊自動車を使用する者が特定特殊自動車（法の施工の前に製作等されたものを含む。）の排出ガスの排出の抑制を図るための取り組むべき措置に関して定めるものである。	適
	経過処置	適
騒音規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
振動規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
自動車リサイクル法	自動車の所有者の責務	適
	使用済自動車の引渡義務	適
	再資源化預託金等の預託義務	適
フロン排出抑制法	特定製品の管理者の責務	適
	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項（簡易点検の実施）	適
	業務用のエアコンディショナー、冷蔵機器及び冷凍機器でフロン類が充填されている第一種特定製品のフロン引渡し	適
	回収依頼書、委託確認書の授受。	適
	引取証明書の授受。	適
	第一種フロン類回収業者は、第一種特定製品廃棄者に対し、フロン回収料金を請求出来る。	適
	フロン類の放出禁止。	適
家電リサイクル法	事業者及び消費者の責務	適
	料金の請求	適
小型家電リサイクル法	定義	適
	事業者の責務	適
農薬取締法	使用の禁止	適
	農薬の使用の規制	適
	水質汚濁性農薬の使用の規制	適
悪臭防止法	規制基準の遵守義務	適
消防法	指定可燃物の届け出	適

当事業所及び建設現場に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関及び利害関係者からの指摘も訴訟もありません。

9. 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

評価及び見直しの実施日 2025年1月30日
評価者(代表者) 木下浩市(社長)

評 価

2024年度(2023.10~2024.9)は、前年度におけるコロナ禍の収束を受け、経済活動が正常化しさらに活発化することにより、多少ともエコアクション活動に影響を与えたものと思われます。

全体的な視点で見れば、大半の項目において年間目標が未達成(13項目中7項目)となっており、改めて継続して環境改善を推進する必要性を強く感じたものの、エコアクション活動に対する社員の意識づけとなっている点では、一定の成果を得ることができたものと考えます。

さて、未達成項目を見ると、本社/田主丸では茶葉の自主生産に伴う乾燥機使用やPPP(官民連携事業)への参画機会の増により、電気やコピー機の使用量が増加したため、またリサイクルでは使用量が減ったものの近隣での同業他社の開業により売上が激減したため、売上高原単位の数値が目標未達成になったものです。

ところで、環境経営レポートについて、前年度はページ数を半減するとともに親しみやすく改訂したところですが、さらに凝縮しページ数を減らすことにより、エコアクション活動の一環としてレポート作成の省力化をしていきたいと思ひます。

見直し(変更の必要性和指示)

1. 本社照明のLED化工事を早急ニ実施すること。
2. 環境経営レポートにおいて、必要性が低いか内容が重複している情報は削除すること。
3. 定型かつ画一的な内容でしかも紙ベースの社内文書は、電子化すること。
4. 電子契約や電子請求を推進すること。



KINOSHITA

～ 環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する ～



桧原運動公園
HIBARU SPORTS PARK

春日公園
KASUGA PARK

福岡市立
今宿野外活動センター